

2020年6月1日一部改定の日本卓球ルールを適用して実施する。

最近のルール改定のポイント

(アドバイス)

- 競技者は、競技が遅れさえしなければ、ラリー中を除いていつでもアドバイスを受けることができる。
- 全日本ジュニアの部は従来通りとし、上記アドバイスルールは適用されない。

(ラケット)

- ラケットが使用に耐えられない程度に誤って破損した場合には、別のラケットと交換しなければならない。

- 一般男子・女子シングルの1～3回戦までは5ゲーム。**4回戦から決勝までは7ゲームにて行う。**ジュニア男子・女子はすべて5ゲームにて行う。

1. ボール、卓球台、ラバー、ラケット、試合方法について

- ボールは日本卓球協会公認の「白色スリースター」40mmプラスチックボールの「一銘柄」を使用する。
- 競技者は、「コールエリア」(選手集会所)でボールを**2個選択**し主審に渡すこと。
- 選択したボールが破損等で使用出来なくなった場合、または双方の競技者があらかじめボールを選択して来なかった場合には、主審が所持するボールの中から無作為に1個を選択して使用する。
- 卓球台はエメラルドグリーンの台を使用する。床にフロアマットを使用する場合がある。
- 外国製ラケットでJTТАが公認していないものを使用する場合には、あらかじめ試合開始の1時間前までに「ラケット使用許可願」を提出し、審判長の確認・許可を受けてから使用すること。
- ラバーは、JTТАまたはITTFが公認したことを示す公認ロゴ付きのものでなければ使用できない。
- ゲーム中にラケットを誤って破損した場合は、スベアまたはプレー領域内で手渡された「別のラケット」に交換し、すぐにプレーを再開すること。

《マルチボールシステムについて》

- 大会後半の**2日間**、16日(土)・17日(日)はマルチボールシステムでおこなう。
- 競技者は、コールエリアでボールを**15個ずつ**選択し主審に渡すこと。
- 試合中はボールパーソンがボールを拾い、副審が球出しする。

《ラケット検査に関する手順と注意点》

- 競技者は、**試合開始予定時刻の20分前**までに、試合で使用するラケットを持って**コールエリア**に集合し、審判員の検査を受けること。
- 審判長から指名された競技者は、**コールエリアでラケットを紙袋に入れ、審判員がラケットコントロール室に運び、検査**を受けることになる。ラケットコントロール室での検査は、**VOC**、接着剤を含むラバーの**厚さ**(ソフトラバーは40mmを超えないこと、スポンジのないラバーは20mmを超えないこと)、表面の**平坦性**等の検査を行う。
- 試合前検査で不合格となった場合、別のラケットに交換して試合を行うこと。**(コートに入る前に、もし試合前に時間があれば、「別のラケット」も検査できるため、試合開始時刻の20分前よりも前に、余裕をもってコールエリアに集合することが望ましい。)
- 試合直前に交換した別のラケット、試合前検査に間に合わなかったラケット、試合中に破損して取り替えたラケットは、試合後に検査を受けることになる。**試合後の検査で違反と判定された場合、その競技者は負けとなり、相手競技者が勝ちとなる。
- 試合前、試合後を問わず、同一競技者がラケット検査で、大会期間中に3回の不合格の判定を受けた場合には、その競技者は大会の参加資格を失うことになる。**
- 競技者の希望により、試合開始前までにラケットコントロール室にラケットを持参し、ラケットの自主検査を受けることができる。**

2. サービスについて

- サービス開始時にフリーハンドの方の手のひらを開き、ボールをのせて**静止**させる。
- ボールに回転を与えることなく、ボールが手のひらから離れた後**16cm以上、ほぼ垂直**に投げ上げ、落下する途中を打たなければならない。
- サービスを開始してから打球されるまでの間、ボールは常にプレーイングサーフェスよりも高い位置で、エンドラインの後方になければならない。またその間、サーバーまたは着用している物でボールをレシーバーから隠してはならない。
- ボールが手のひらから離れたら、すぐにフリーアーム(腕)とフリーハンド(手首から先)をボールとネットとの間の空間の外に出さなければならない。

3. 競技服装について

- 競技用服装(シャツ、ショーツ、スカート)は、JTТАの公認マークの付いているものを着用すること。
- 同色系の服装による対戦を避けるため、**各試合、明らかに色の異なった2種類以上のシャツ**を用意すること。
- 競技用服装以外に、サポーター、リストバンド、ヘアバンド、スパッツを着用できる。それらの着用物上にメーカーロゴの表示がある場合は、同ロゴが日卓協公認用具指定業者のものであることを条件に、1箇所の表示のみ認められる。(指定業者でない場合ロゴを隠して使用出来る)

- アンダーシャツは競技用服装から大きくはみ出さないことを条件に着用できる。アンダーシャツがはみ出した場合、はみ出した部分には、メーカーの商標・ロゴが見えていてはならない。
- 「ゼッケン」は、主催者が用意したもの以外は使用出来ない。

4. タイムアウトについて

- 競技者または指名されたアドバイザーは、1マッチを通じて1分以内の「タイムアウト」を1回要求することができる。
- タイムアウトは、ゲーム中のラリーとラリーの間においてのみ要求できる。その際、手で「T」の字を作るか、又は用意されたホワイトカードを使用して、**主審にその意思を明確に示すこと。**
- 競技者とアドバイザーの意思・要求が異なった時は、**競技者の意思・要求が優先される。**

5. バッドマナーについて

- 競技者またはアドバイザーが大声で叫ぶ、汚い言葉を使う、相手競技者を威嚇する、故意にボールを潰したり競技領域外に打って出す、卓球台やフェンスを乱暴に扱う等、相手競技者に対し悪い影響を与える、観客に不快感を与える、ゲームの評価を落とすような態度をとる、または無断でラケットを交換する、競技役員の指示を無視するなどの行為がバッドマナーとなる。
- バッドマナーに対して最初イエローカードが提示され、警告される。
- 競技者のバッドマナーが繰り返された場合には、イエロー・レッドカードが提示される。バッドマナーと判断された競技者の対戦相手はポイントを獲得する。
- 重大なバッドマナーを行った競技者には、それが最初であっても退場、失格等のペナルティーが科せられる場合がある。
- 「スロープレー」もバッドマナーの対象となる。競技者は、ポイントが決定した後、速やかに次のサービス体勢、あるいはレシーブ体勢をとり、みだりに時間を取ることなく、競技の円滑な進行に協力しなければならない。
- 試合開始時刻に遅れる、理由なく相手を待たせる等の行為もバッドマナーとなるものであり、競技スケジュールを確認し、競技の円滑な進行に協力しなければならない。

6. アドバイス・抗議について

- ベンチには、試合開始前に届け出たアドバイザー1名のみが入ることができる。
- アドバイザーは原則として、競技者と一緒にベンチに入ることが望ましい。
- 全日本ジュニアの部に適用されるアドバイスルール**
 - ・**試合中のアドバイスは、ゲームとゲームの間の休憩時間、またはルールで認められた競技中断時**にのみ認められる。
 - ・試合中のアドバイスは、認められた時間以外には、ジェスチャーも含め、一切禁止されている。違反した者には退場を含めた罰則が科せられる。最初の違反ではイエローカードの提示とともに警告がなされ、2回目の違反では、レッドカードの提示とともに競技領域外への退場が求められる。
- 抗議は、その試合に参加している競技者のみが行うことができる。
- 競技者、アドバイザーは、主審または副審による事実の判定(ジャッジ)に対しては抗議出来ない。

※同時に2コートのアドバイザーとなることを希望する場合は、各試合前に主審に届け出る事により許可される。

7. 幕・旗の掲示について

- 大会参加者が掲示出来る横幕は、縦1m、横4mの範囲の大きさとし、卓球部名が入っていなければならない。
- 横幕の表示は、競技会のスポンサーとして協賛するところ以外は、卓球部名以上に企業名を大きくしたものは、宣伝を目的としたものとして認めない。
- 横断幕に支柱を付けて、座席で立てる、振るなどしてはならない。
- 校旗、部旗は縦1.5m×横2m以内とし、校章、社章またはシンボルマークは中央に入れ、タテかヨコ表示の卓球部名が入っていること。
- 縦幕の使用は許可しない。

※応援のための横幕、旗は、自チームの全選手の試合が終了した後、速やかに撤去すること。

8. 一般的注意事項

- 競技日程・組み合わせ・試合予定時間・試合コート等を自ら確認しコートへの入場を遅らせないこと。
- 試合予定時刻より早い時期に試合を開始できる場合には、試合開始予定時刻の15分前から試合を行う場合がある。
- 前項の場合を含め、競技運営上の都合により、予告なしに試合コートあるいは開始時刻が変更されることがあるため、場内放送・掲示等に注意して行動すること。
- カメラ、ビデオ撮影は、競技者が自己のプレーを撮影する目的に限定し、1台のみ使用することができる。
- 競技領域及びその近辺での携帯電話等通信機器の使用を禁止する。
- 自己の身体状況にあったウォームアップをして試合に臨むこと。特に、関節、アキレス腱などに対する準備運動は必ず行うこと。
- 主催者は競技中に起こったケガ・事故については応急処置を施すが、その結果およびそこから派生する問題についての一切の責任は負わない。
- 主催者は、大会中に発生した盗難については一切責任を負わない。